

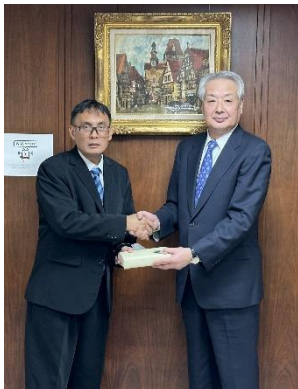
2024年3月12日
日本船主協会 企画部

インドネシア海運総局長が当協会を表敬訪問
～マ・シ海峡航行安全問題等について意見交換～

インドネシア共和国運輸省のアントニー・アリフ・プリアディ海運総局長が3月8日に当協会を表敬訪問し、土屋副会長および森重理事長他が対応しました。土屋副会長は面談冒頭、インドネシア政府がマラッカ・シンガポール海峡の航行安全確保で極めて重要な役割を担っていることに謝意を表明するとともに、当協会はマラッカ海峡協議会を通じて今後も航行援助施設の維持・発展に協力していく意向を表明。また、外航海運に対する国際規制の適用が確保されるためにはアジア船主の対外的意見発信が益々重要となるところ、インドネシア船主協会（INSA）会長（現：アセアン船主協会会長）が2024年5月末にアジア船主協会（ASA）の議長に就任予定であることから、同団体の活動への支援を要請しました。

これに対し、プリアディ海運総局長からは、同海峡の航行安全に対する当協会の長年にわたる貢献に謝意が表明された他、INSAの活動に対して全面的に支持していると発言。さらに、同総局長は、パティンバン港開発事業やインドネシア籍老齢船向け国内解撤ヤードの運営に触れた他、同国水域の投錨可能エリアの周知の必要性等について発言がありました。

その他、当協会からは、インドネシアの貨物留保政策（石炭・粗パーム油等特定品目を10,000DWT以下の船舶で輸出する場合に同国船社利用を義務付けるもの）や国際海上輸送業者に対する現地代理店利用義務について懸念を表明、同海運総局長からは対話継続の意向が示されました。



写真

左：プリアディ海運総局長（左）と土屋副会長

右：ハッタ運輸アタッシュエ（左）と森重理事長

以上